



▲伊藤 和音さん、中島 実咲さん、
奥山 莉里花さん



▲山吹 真裕さん



▲吉井 奏音さん



▲高橋 藍菜さん



▲柴田 遥有さん



▲村上 夏実さん、竹林 伶茄さん、齊藤 日菜さん、
荒木 美優さん、道下 陽代さん、山本 一乃さん

とっげき 突撃
二十歳にインタビュー
これからの夢や目標は?

二十歳を祝う会の会場でお聞きしました。協力してくださった皆さま、ありがとうございます!



ずっと ともだち 友達

二十歳を迎えられた皆さま
おめでとうございます



令和7年 第3回
芽室町二十歳を祝う会



1月12日にめむろーどのセ
ミナーホールで二十歳を祝う
会が執り行われました。15
0名が出席し、同級生や恩師
との再会を喜び合いました。
芽室町民憲章の宣誓を山口遼
大さん、はたちの誓いを
五十嵐悠良さんと谷口愁侑さ
んが務め、大人としての決意
を表明。手島町長からは「自
分に正直に素直な大人になって」と
と祝辞が送られました。皆さま、
おめでとうございます。

▲はたちの誓いをする
谷口さんと五十嵐さん
▲芽室町民憲章を
宣誓する山口さん

ゼロカーボンの取組

Q 町のCO2排出量は産業部門が多く、2030年度の中期目標達成に向けて、家庭で個人が頑張ってもかなり不足し、結局産業部門の排出量を抑えていく必要があると思うが、その辺りはどのように進めていくのか。

A 産業部門は排出量が多く、急に全て再生可能エネルギーに転換することは難しい。企業の努力でお金を払ってカーボンオフセット等を実施している企業もあり、引き続き取り組んでもらいたい。ポイントとしては、まずは行政がトップランナーとして進めていきたいという思い。例えばだが、役場庁舎から公立芽室病院までの公共施設の電気を、マイクログリッドと言う一定の範囲の中で地産地消していくような仕組みができないか等の研究を始めている。また、古い施設の照明をLED化していくなど、行政で一生懸命進めていることを示しながら、その次に、市民の皆さんに対して、再生エネルギー導入への補助事業等も進めたい。

Q 再エネ・省エネ導入への補助事業としてLED照明への補助を予定しているようだが、2027年に蛍光灯等の製造が中止になる。補助を実施するのであれば、工事が一斉に集中してしまうのではないかと心配。補助

助に関しても、予算規模や申込期間など、早めに情報をもたせるとありがたい。

A 需要が集中しても急に製造量は上がらないと思うので、混乱する懸念はある。それも踏まえて、町として環境省とも話をしており、課題と認識している。補助事業実施の際には早めにお伝えしたい。

Q 町で行うフレジットの方策は、どのようなアプローチで考えているか。

A 十勝広域森林組合と連携しながら、町が持っている町有林や森林組合が持つ森林による二酸化炭素吸収量をクレジット化して、買っていたく企業に売っていくことを考えている。その他にも、可能性を模索しながら広げていきたい。

Q 町として電気自動車などを公用車にする計画はあるか。

A 更新の際は考えていきたい。電気自動車もいいが、冬の走行距離やエンジンルームが暖まらないことで凍ってハンドルが回らないなど、北海道ならではの課題があると聞く。現実的にはPHEVプラグインハイブリットがベストだと考えている。

ている。そういう意味では、リスクも少ないものと感じている。

Q 芽室公園を道の駅化する考えはないか。

A 道内の道央圏以外のモンベルショップは全て道の駅とセットで建てられている。そのことから、芽室町でも道の駅とセットという意見はかなりいただいている。完全否定はしていないが、道の駅の経営は採算がとれないところが多いというのが実態である。自治体からの支援がないと厳しいところが多い。ただ、道の駅とセットでやってみようかという意見も多いので、参考にしながら検討していきたい。資本を出してくれる事業者が道の駅としても整備したいとの提案があるかという問題もある。あとは、農作物を販売している愛菜屋との位置付けや兼ね合いもある。今の道の駅は大きな駐車場スペースが必要になっていることや、魅力をどう出していくかなど考える必要もあるが、検討はしていきたい。

Q モンベルのショップが芽室公園にできるかもしれないと聞いた。平成29年の法改正により、都市公園において飲食店や売店等の設置が可能となり、町内での出店を検討していたモンベルの意向とも一致したため、芽室公園で検討を進めたところである。ただ、現在は市場性の調査をしている段階であり、出店等が決まったわけではない。この後、資本を出してくれる事業者が現れることが前提となる。

町としてはモンベルショップ建設を条件とし、それに付随して商業施設や飲食店等をセットで提案してもらうよう進める考えで、その提案を受けて町として活用を許可するかどうかということを判断していく。そのため、建設に当たって町が投資することはない。また、仮に撤退する場合でも、基本的には現状回復するというルールになっ

新嵐山スカイパーク

Q 計画だと新嵐山荘は解体することになるので、再オープンしても食事する場所はないのか。

A 新嵐山荘は解体し、宿泊機能は無くす予定だが、「拠点施設」を新たに建てて、この施設にレストラン機能を持たせる。食の部分も大事に考えており、1年通じて利用できる食堂、レストランとして整備したい。

Q 宿泊施設は建てないのか。

A 町で建てる考えはない。新嵐山株式会社が倒産し、決算を見ると、圧倒的に宿泊部門が赤字だった。資金繰りが悪くなった要因にもなっていて、ニーズとしても厳しい。町民からも宿泊施設の要望は少ない。考えているのが、旧新嵐山荘南側や旧オートキャンプ場のゾーン。ここを民間活用ゾーンとして、令和8年度に公募を行い、民間事業者から活用の想定があるということであれば、提案を受け付け

Q 民間活用ゾーンの近くには綺麗な美生川が流れている。自然を壊さないよう、簡単に売るようなことはせず、仮に売るにしても貸すにしてもしっかりと業者を選定してほしい。

る。

また、それが決まった時には事前に町民に説明してほしい。

A 仰るとおり。町としても簡単に売ったり貸したりは考えていない。乱開発は考えていないので、新嵐山のコンセプトに合うような提案をしてきた民間事業者に対し、町としてどうするかを決めていきたい。一部整備する部分はあるかもしれないが、自然は壊さないように取り組んでいきたい。オオバナエンレイソウなど、守らなければならぬ場所の保護には配慮していく。

Q 町に温浴施設がないので、日帰りでも近場に温泉があれば憩いの場としていいと思う。

A まちなかに観光で宿泊できるような場所がないことは町としても課題であり、まちなかに宿泊と温浴施設を整備できないかと知恵を絞っている。苦慮しているが、課題と認識していると考えていきたい。

新嵐山では、冬でも使えて、しっかりとした部屋として成り立つようなコテージを5棟ほど建てようとして

いる。キャンプ場としては、コテージの奥にオートキャンプ場を整備するイメージ。フリーサイトをどうするかなどの細かい部分は、これから計画の中で考えていく。

A 住宅付近に集が作られた等の対応は可能だが、あの量を一度に処理するということはなかなか難しいと感じる。農村部であれば民の設置や空気銃で撃つことができるが、市街地ではできない。他の鳥獣もそうだが、駆除だけでなく追い払う方法も検討が必要で、カラスにも効くような忌避資材も増えてきているので、農林課と環境土木課で協議し、効果がありそうな忌避資材を試してみるなど、考えていきたい。

Q 最近、芽室町もふるさと納税の実績が上がってきており、芽室町の認知度向上にもつながっていると思う。ふるさと納税による町の収益、また、逆に芽室町から出て行っている金額は把握できるのか。

A 以前は1億円に満たないくらいのは3倍の3億円を目標にしたが、1億円から2億7,000万円になり、昨年度は4億5,000万円となった。今年度は12月にテレビ番組で取り上げられたことで、12月だけでも2億円ほどの寄付があり、目標である6億円に届きそうなくらい伸びている。

仰るとおり、町から出ていく分もあり、昨年度の実績4億5,000万円です。説明すると、返礼品を含めて経費で約半分の支出があり、そこから町民の

Q サイクルツーリズムの関係で、町内を走っている自転車が、道路が整備されていないため怖い。トラクター等の作業車で走っていると、速い自転車だったりゆっくりな自転車が走っていたりすると危ない。観光の過渡期なのでお互い譲り合うしかないのだろうか。何かルールを作れないかと思っている。

A サイクルツーリズムは町の観光路などでは整備されておらず、危険な部分はあり得るかもしれない。十勝ではトカプチ400というサイクルルートがあり、それに芽室町は入っていないが、サブルートに芽室町を入れるという話もある。ただ、入るとするならば道の整備も一緒にやらないといけないので、北海道や国も含めて整備していくことになる。

色の付いた専用道路のようなものを整備すると周りも気をつけて走れるので、そのような整備が必要と考えているが、数年で完全に整備することは難しいので、当面は要望、要請をして検討していく。